



梅田中だより

<第18号>

11月

音楽祭を開催しました。

もう、すっかり冬の訪れを思わせるような肌寒さを感じる季節となってきました。11月12日（金）に梅田中学校体育館で音楽祭を開催しました。これまでなかなかコロナウィルス感染症の影響と警戒度が下がらず、学校でも子供たちは、一緒に合唱の練習をしたくても、マスクを取ることも、各パートで向き合って声を合わせることもできない状況が続いていました。

ようやく警戒度も下がり、音楽の時間はもちろん、朝や帰りの学活の時間に練習に励み、合唱祭が実施できました。子供たちは力一杯、学校中に、その素晴らしい歌声を響かせてくれました。クラス全体で、さまざまな壁を一つ一つ乗り越えて、合唱祭当日の美しい歌声が完成したと強く感じます。

伴奏や指揮を担当した子供たちは、通常なら、夏休み前から練習に励むことができたはずでした。しかし、今年も、コロナウィルス感染症の影響で、直前まで音楽祭が開催できるかがわかりませんでした。どの子供たちも、開催が決まってからは、猛特訓をしてきていたのが印象的です。これまで練習をしてきた中でクラスの仲間と共に協力したことから得た経験が、子供たちの「今後の生きる力」になると信じています。合唱で力一杯、頑張った全ての子供たちに、お疲れ様でしたと伝えたいです。



1年生「絆」



2年生「心の瞳」



3年生「友 ～旅立ちの時～」



3年生の指揮

1年生は、中学生になって初めての本格的な三部合唱でした。どの子供も気持ちを込めて、丁寧に歌えていました。今後は男子が変声期を迎えて重厚感のある低音が響くようになります。ますます楽しい合唱になると感じました。

2年生は人数が少ないながらも、各々の子供たちが、自分の分担するパートを責任をもって歌えました。1年生の時より男子の力強さが増し、女子の繊細な歌声とよく調和していました。来年の合唱が、さらに楽しみになりました。

3年生は落ち着いて、自信を持って一人一人が自分のパートの役割を歌えていたと感じます。今年も、梅田中の代表として、胸を張って、どこに出しても恥ずかしくない素晴らしい出来映えでした。



合唱を見守る保護者の皆様

今年も、音楽祭当日は各学年1曲のみの発表でした。しかし、どの学年も集中し、これまでの練習の成果を十分に発揮して歌いきっていました。ご参観いただいた保護者の皆様にも、子供たちが歌に込めた想いが、きっと伝わったのではないかと思います。お忙しい中、ご来校いただいた保護者の皆様には、心より、感謝を申し上げます。

2年生が和菓子作りを体験しました。

梅田中学校がある地元の和菓子店の香雲堂の小泉慶太さんをお招きして、和菓子作りを体験しました。香雲堂は、桐生市で昭和40年創業の和菓子店です。先代の小泉孝さんが梅田に店舗兼工場を作り、小泉孝さんの息子さんである小泉慶太さん（三代目）が現在のご主人で、梅田中学校の卒業生です。慶太さんは、大学4年生の時に、和菓子職人になることを決意し、京都の老舗（しにせ）和菓子店「末富」で5年間の修業を重ね、昨年4月より桐生に戻って来たそうです。



講師を務めていただいた小泉慶太さん

今回、教えていただいた和菓子作りの技法を使って、子供たちは美術の授業の時間で「ふるさと梅田」をテーマに、樹脂粘土を使ってオリジナルの和菓子を作成していきます。毎年、見ていると思わず、手が出て食べたくするような作品が数多くできあがります。とても楽しみです。



丁寧な教え方に感激です



美しい出来映えの和菓子



抹茶もいただき心も身体も温まりました

オリンピック終了後に関心をもった記事から。

今年は東京オリンピック・パラリンピック2020が開催され、たくさんのアスリートが大活躍をしていました。選手の皆さんにおいては、コロナ禍の中、技術、体調を整えての準備、モチベーションの維持、周囲のプレッシャー等、大変だったことと思います。参加した全ての選手の皆さんの健闘を讃えたいと思います。その中でも、やり投げで銀メダルに輝いたポーランドのマリア・アンドレイチェク選手の話が、心に残ったのでお伝えしたいと思います。

女子やり投げのマリア・アンドレイチェク選手(ポーランド)

今回のオリンピックが終わった後、ニュースを見ていて、心に残った話題がありました。それは、陸上競技女子やり投げで銀メダルに輝いたポーランドのマリア・アンドレイチェク選手の話です。彼女は、努力の末、獲得した銀メダルをオークションに出品したのです。しかし、その理由は、母国の心臓病の少年の手術費用を工面するためであった、と報じられていました。

アンドレイチェク選手自身も、2016年、リオ五輪で4位に入賞した後、2018年に骨にできる悪性腫瘍と診断され、その後回復し、今回の東京オリンピックで見事メダルを獲得したそうです。

血のにじむような努力をして手に入れたメダルを、他人のために売却する決断はそう簡単にはできない行為だと思います。

アンドレイチェク選手は「メダルの真の価値は常に心にとどまります。メダルはただの物質でしかありませんが、他の人にとって、時に素晴らしい価値を持ちます。この銀メダルはクローゼットでほこりを被る代わりに、人の命を助けられるのです。だからこそ、病気の子供を助けようと決めたのです。」と語っていたそうです。

最終的に落札したのは、アンドレイチェク選手の母国であるポーランドのコンビニ大手「ジャブカ」という会社だそうです。そして、この会社は、アンドレイチェク選手の決断に心をうたれ、オークション終了後には、メダルをアンドレイチェク選手に返還したそうです。そして、少年が手術に必要な残りの費用を提供することを決めたと伝えられています。このおかげで、無事少年は手術を受けられることが決まったそうです。このことを知り、アンドレイチェク選手の子供の命を助けようとする気持ちの強さに、感動を覚えました。



梅田中学校 学校通信 「梅田中だより」 <文責 阿部 誠二>

TEL 32-1018, FAX 32-1039

URL <http://www.kiryu-umeda-j.ed.jp/>

上のQRコード又はURLから梅田中学校のWebページをご覧ください。

※ ホームページの更新を随時しております。写真もカラーで掲載しておりますのでご覧ください。